

英語授業におけるICTの効果的な活用法について

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-03-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 八木, 岳彦 メールアドレス: 所属:
URL	https://osaka-shoin.repo.nii.ac.jp/records/4459

英語授業における ICT の効果的な活用法について

樟蔭中学校・高等学校英語科教諭

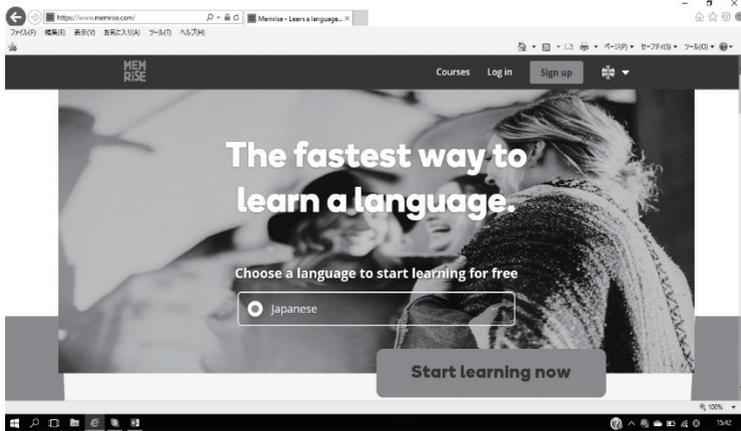
八木 岳彦

1. はじめに

グローバル化が進んでいることと同時に、ICT も益々発展してきている。英語教育においても、4 技能の重要性がさらに高まり、「英語を使える日本人」の育成が求められている。日本のように EFL 環境においては、ICT を用いることなどの工夫によって、限られたインプットや英語の使用頻度の中でも、英語力向上につなげていく努力をしていくことが必要だと考える。従来の指導法に加えて、新たな取り組みを実践していくことで、より良い指導法を模索していきたい。

2. 本校での取り組み

コミュニケーション英語 I の授業において、ICT を活用した授業を実践している。週 3 コマのうち 1 コマの授業で、教員は日本人教員 1 名とネイティブ教員 1 名の 2 名である。その授業では生徒一人ひとりが i-Pad を使い、google classroom 内でドキュメントやスライド、スプレッドシートなどの「G Suite」を利用している。また MEMRiSE (画像 1) というアプリも使用している。この授業での目標は、英語の 4 技能の中でも特にリスニング・ライティング・スピーキングに重点を置き、ペーパーレスで授業展開し、ICT を効果的に使いながら生徒の英語力を伸ばすことである。これまで行ってきた授業を簡単に紹介する (表 1 参照)。



画像 1

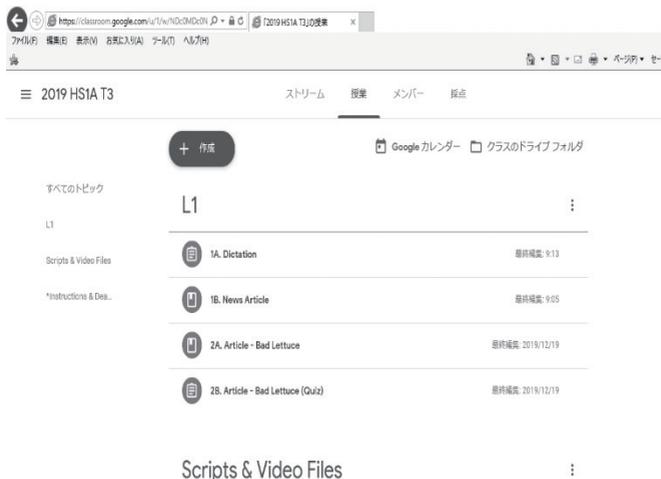
Lesson 1	授業ガイダンス IPA(International Phonetic Alphabet) について
Lesson 2	IPA 子音の練習 (発音記号・リスニング・スピーキング)
Lesson 3	IPA 母音の練習 (発音記号・リスニング・スピーキング)
Lesson 4	IPA 二重母音の練習 (発音記号・リスニング・スピーキング)
Lesson 5	プレゼンテーションの説明
Lesson 6	プレゼンテーション準備 (Body Point)
Lesson 7	プレゼンテーション準備 (Body Point)
Lesson 8	プレゼンテーション準備 (Concluding Sentences)
Lesson 9	プレゼンテーション準備 (写真やイラスト)
Lesson 10	プレゼンテーション発表

表 1

前半の授業では、IPA の発音記号を覚えたり、正しく発音したり、聞き取れるようになるための練習を行い、子音・母音・二重母音を扱った。生徒はMEMRISEを使って練習し、google フォームで小テストを受けた。google フォームを利用する利点は、自動的に採点され、すぐに生徒も結果を確認することができることである。

後半の授業では、プレゼンテーションを行った。ライティングの基本的な指導を行い、ペアあるいはグループでスプレッドシートを使い共同作業させた。生徒が作った原稿を google classroom 内で提出させ、教員がチェックをし、指導を行った。最後の授業で発表し、教員が評価を行った。

google classroom に作成した教材を事前に準備しておくことで、教員中心の授業から生徒中心の授業に転換しやすくなる。また、事前に授業に必要な情報を載せておくことで、授業外でも学べる機会ができ、授業中はインタラクティブの多い授業にすることができる。一方的で説明の多い授業ではなく、英語を使う時間を増やすために ICT は有効である。下の画像 2 は google classroom のページで、さまざまな教材を使うことができる。生徒に公開する時間指定もできるため、直前に作る必要もないし、何度も使うことができる。さまざまな課題を与えることができ、便利である。



画像 2

3学期は、ニュース映像のような動画作成をさせる予定で、生徒が原稿を英語で作り、撮影・編集し、動画を完成させる課題を行う。そのときには、iMovie というアプリを使用し、無料で簡単に動画作成することができる。

3. まとめ

従来の教科書とノートを用いた授業と、ICTを使った授業を使い分けることが大切だと考える。ただ、ICTを使うことで今までやりたかったけどできなかったことが比較的簡単にできるようになったり、生徒の興味・関心を引きやすくなったり、メリットがたくさんある。このことは英語に限らず、他教科でも同様のことが言えると思う。教員が新しいことを学び、試行錯誤しながらでも実践していく姿勢が重要であろう。今後も新たな実践に挑戦していきたい。